

簿記3級仕訳問題 第4回

問. 次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	売掛金	当座預金	受取手形	立替金
貸付金	仮払金	前払金	当座借越	商品券
支払手形	買掛金	仮受金	未払金	貸倒引当金
借入金	前受金	預り金	他店商品券	資本金
売上	仕入	損益	租税公課	支払利息
受取利息	貸倒損失			

1. 商品券の精算をするため、本店が保有している他店商品券¥25,000 と他店が保有している本店発行の商品券 23,000 を交換し、差額は現金で決済した。
2. 本店が事業の用に供している事務所の固定資産税¥150,000 及び本店事業主が個人的趣味としているスポーツカーの自動車税¥88,000 と合わせて現金で支払った。
3. 前期に売上げた仙台商店に対する売掛金¥80,000 が、倒産により回収不能となったため貸倒れの処理を行う。なお、貸倒引当金勘定の貸方残高が¥20,000 ある。
4. 当期首に群馬商店に貸し付けた現金¥500,000（貸付期間6ヶ月、年利率4%）が、本日満期日が到来したので利息とともに同店振出の小切手で受け取り、ただちに取引銀行の当座預金に預け入れた。なお、現在、当座預金は¥234,000 の借越となっているが、同口座は¥500,000 の当座借越契約を結んでいる。
5. 本店は決算で集計していた損益勘定について、借方は総合計金額¥3,530,000、貸方は総合計金額¥4,145,000 となった。この差額を資本金勘定に振り替える。

簿記 3 級仕訳問題 第 4 回 答案用紙

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

簿記3級仕訳問題 第4回 解答・解説

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	商品券 現金	23,000 2,000	他店商品券	25,000
2	租税公課 資本金	150,000 88,000	現金	238,000
3	貸倒引当金 貸倒損失	20,000 60,000	売掛金	80,000
4	当座預金 当座借越	276,000 234,000	貸付金 受取利息	500,000 10,000
5	損益	615,000	資本金	615,000

1. 他店商品券は資産、当店発行の商品券は負債として処理します。これら交換によって資産が減り、負債も減ることになります。精算での差額は指示により現金で行います。
2. 事業主個人が所有しているスポーツカーに対する自動車税については、事業と何ら関係がないので費用にはなりません。会社の現金で個人的な自動車税を支払っているので、資本金又は引出金として処理します。本問は勘定科目のうち最も適切な資本金勘定で処理します。
3. 前期に売り上げた際の売掛金は期末に貸倒引当金の設定がされています。当期に貸倒れとなった場合は、まず貸倒引当金から填補して残りは当期の損失として計上することになります。
4. 当座借越がありますが、当座勘定は指定されていないので二勘定制であることが読み取れます。この場合は当座借越を精算して、残りを当座預金勘定に計上することに注意しましょう。利息とともに小切手を受け取っているが、ただちに当座預金としていることから現金で処理はしません。

$$\text{¥}500,000 \times 4\% \times (6 \text{ ヶ月} \div 12 \text{ ヶ月}) = \text{¥}10,000 \quad \dots \quad \text{受取利息}$$

5. 損益勘定の借方は費用総額を表し、貸方は収益総額を表します。貸方が多い場合の差額は当期純利益になりますので、振替仕訳で資本金（元手）を大きくする結果になります。